

# 第68回在宅ケアネット渋川 講演会レポート

[日時] 3月13日(水) 19:00~20:15 [会場] プレヴェール渋川  
 [演題] こころの病との向き合い方  
 [講師] 医療法人群栄会 田中病院  
 院長・理事長 田中 永 先生



職 種	計
医師、歯科医師、薬剤師	16
看護職(保健師・看護師)	71
PT/OT/ST	14
介護支援専門員	21
介護職	8
精神保健福祉士、SW	12
事務(行政含む)	8
その他	9
合計人数	159



## 基本的姿勢

- 医療・介護従事者であることを常に意識
- 一個人としてではなく、専門職として接する
- 「できること」「できないこと」をしっかりと伝える
- 転移や逆転移が生じたと感じたら、距離を置く
- 「何ができるか？」を考え続ける

【講演資料より抜粋】

今回は、精神科医として長年にわたり心の不調や認知症医療に携わっておられる田中先生のお話でした。医療・介護関係者には関心の高いテーマだったとみえ、150名を超える方のご参加がありました。専門職としてどう接するか、改めて考える時間となったようです。

### [参加者の感想 (一部抜粋)]

- ☆こころの病を持った方への看護を怖いと思うことがあります。まずはかまえず、気持ちの共感、信頼関係を築くことが大切だと思いました。
- ☆興味深いテーマで病として学習ができ、冷静に考えられるようになって感じました。思いがけない介護状態の介護者や、ご本人からの相談に応じる中で、揺らぐことがしばしばあります。専門的なお話を伺う機会をありがとうございました。
- ☆躁状態で考えがまとまらない方に対して助言をしてしまう傾向にあったが、話を聞き受け止めることが大事だという事に改めて気付くことができた。今後の業務に活かしていきたい。

### [参加者の感想 (一部抜粋)]

- ☆対象者の病気(疾患)をどれだけ理解しているのか。その人の人間性をどれだけ理解しているのか。信頼関係を築くこと等、大切であり、目の前の対象者をどれだけ理解できているかが大切な事と思いました。(一部省略) 振り返りも客観的に行っていきたいと思いました。
- ☆最期の言葉が印象深いです。「思いあがった気持ちは捨てる。プロとして接する人になる」非常に有意義でした。
- ☆カスハラに対し、医療や介護への「思い違いがある」と先生から話が出て納得しました。
- ☆心を支えるという事は難しく答えの出ないことも多いですが、対応することが全てではなく、寄り添うことの大切さを学ぶことができました。ありがとうございました。
- ☆認知症ではない精神的な病気の細かい対応方法を少しでも知ることができて良かったです。判断が難しい場合もあるが、精神科受診を伝えることが重要だと改めて感じました。